

# 岩手県の新総合計画

## 「いわて県民計画（2019～2028）」

～東日本大震災津波からの復興と「幸福」をキーワードとする政策の推進～

---

岩手県 政策地域部 政策推進室 和川 央

令和2年2月21日（金）

## § 本日の発表内容 §

### I 「いわて県民計画」の概要

- 1 計画の概要
- 2 なぜ「幸福」なのか
- 3 なぜ「県民計画」なのか

### II 「いわて県民計画」の特徴

- 1 幸福に関する実感に基づいた政策体系
- 2 県民の実感を反映した政策評価
- 3 計画推進のためのその他の取組

# I. 「いわて県民計画」の概要

---

- I 「いわて県民計画」の概要
  - 1 計画の概要
  - 2 なぜ「幸福」なのか
  - 3 なぜ「県民計画」なのか
- II 「いわて県民計画」の特徴

## I.「いわて県民計画」の概要

### 1 計画の概要

#### (1) 計画策定の趣旨・役割

- 長期的展望のもとで県政を推進
- 総合計画のもとに、個別計画を策定、毎年度の予算を編成
- 県民等と一緒に取組を進めていくためのビジョン

#### (2) 計画の構成

10年間の「長期ビジョン」と、マニフェスト・サイクルを考慮して4年毎に作成する「アクションプラン」で構成

長期 ビジョン	長期的な岩手県の将来を展望し、県民みんなで目指す将来像と、その実現に向けて取り組む政策の基本方向を明らかにするもの [実施期間：2019年度から2028年度までの10箇年]
アクション プラン	長期ビジョンの実効性を確保するため、重点的・優先的に取り組むべき政策や具体的な推進方策を盛り込むもの [第1期：2019年度～2022年度] <b>復興推進プラン</b> <b>政策推進プラン</b> <b>地域振興プラン</b> <b>行政経営プラン</b>

## I.「いわて県民計画」の概要

### 1 計画の概要

#### (3) 計画の主な要点

- ① **東日本大震災からの復興に引き続き取り組むこと**  
岩手県復興計画を継承し、復興の実現に向けた取組と連動
- ② **「幸福」をキーワードとする政策の推進**  
➢ 『Ⅱ.「いわて県民計画」の特徴』で説明
- ③ **県民みんなで取り組むもの**  
行政だけでなく、多様な主体と岩手県の将来像を共有し、各主体が自ら取組を進めるためのビジョンとして位置づけ  
➢ 詳細は『3 なぜ「県民計画」なのか』で説明

#### §いわて県民計画の基本目標

東日本大震災津波の経験に基づき、  
引き続き復興に取り組みながら、

**お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて**

## I. 「いわて県民計画」の概要

### 2 なぜ「幸福」なのか

#### (1) 時代的背景

- 物質的な豊かさに加え、心の豊かさや、地域の人々のつながりを大切にし、一人ひとりの幸福度を高める社会づくりを進めることが求められている。
- そのような考え方を背景に、自治体を中心に、**「幸福度」に着目した研究や政策への活用が進められている。**

#### (2) 岩手県における背景

- 岩手県では、東日本大震災からの復興に当たり**「被災者一人ひとりの幸福追求権を保障する」**ことを原則の一つに、**被災地の人々の暮らしや仕事を起点に復興に取り組んできた。**
- 復興の実践で培われた一人ひとりの幸福を守り育てる姿勢を、復興のみならず、県政全般に広げ、岩手の地で様々な課題を解決していく

## I. 「いわて県民計画」の概要

### 3 なぜ「県民計画」なのか

#### (1) 県民みんなで計画推進

県民計画の推進は、あらゆる主体の行動が重要となることから、政策分野ごとに「みんなで取り組みたいこと」として**各主体に期待される役割を明記**。

#### (2) オール岩手で計画を策定

様々な主体から幅広く意見を聴取し**オール岩手で計画を策定**

【有識者・専門家】 総合計画審議会、各種審議会・委員会等

【県議会】 計画策定の各段階に、その内容について説明・質疑

※ 議長を除く全議員による特別委員会を7月に設置し  
半年間をかけて合計28時間の審議

【県民・団体等】 パブリックコメント、地域説明会、  
フォーラム、ワークショップ

【市町村】 市町村長との意見交換、各圏域における懇談会 等

## Ⅱ. 「いわて県民計画」の特徴

### 1 幸福に関する実感に基づいた政策 体系

---

I 「いわて県民計画」の概要

Ⅱ 「いわて県民計画」の特徴

1 幸福に関する実感に基づいた政策体系

2 県民の実感を反映した政策評価

3 計画推進のためのその他の取組



## Ⅱ.「いわて県民計画」の特徴

### 1 幸福に関する実感に基づいた政策体系

#### (1) 「岩手の幸福に関する指標」研究会が示した幸福度指標体系

##### ➤ 2016年「岩手の幸福に関する指標研究会」を設置

- ・ 計画策定に先立ち、外部有識者からなる研究会を設置
- ・ 県民の幸福感を的確に把握し、施策展開に活用するための手法を検討

##### ➤ 2017年「岩手の幸福に関する指標研究会」報告書公表

#### ① 幸福感を構成する12領域の設定

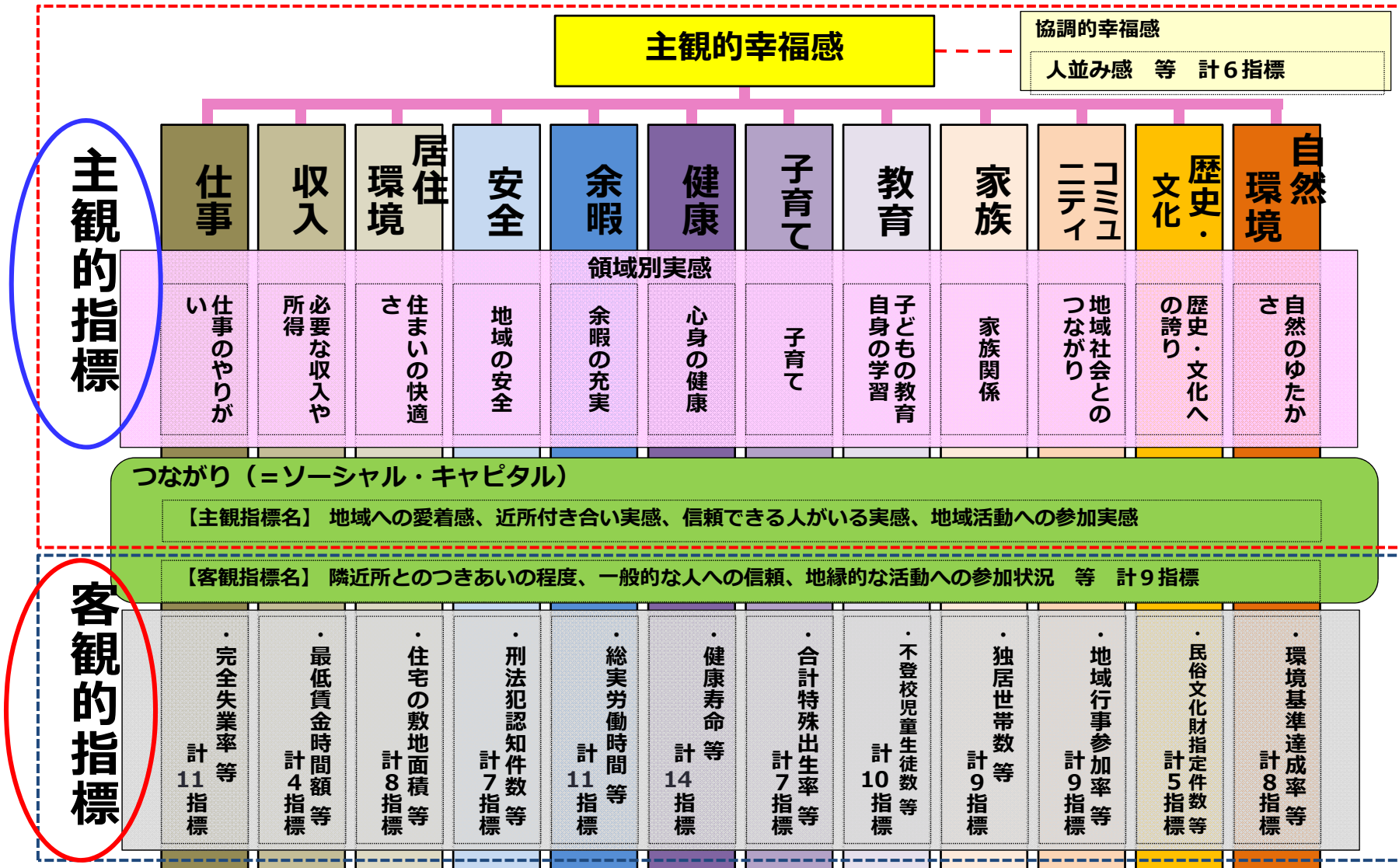
国内外の先行研究と2度の県民意識調査（5,000人対象）の分析結果から、岩手県民の幸福感に関連する12領域を設定

#### ② 「主観的指標」と「客観的指標」の2層構造の指標体系

#### ③ ソーシャルキャピタル（つながり）が横断的に影響

ソーシャルキャピタルは、全12領域に影響を与えることで、間接的に幸福感に影響を与えることを指摘

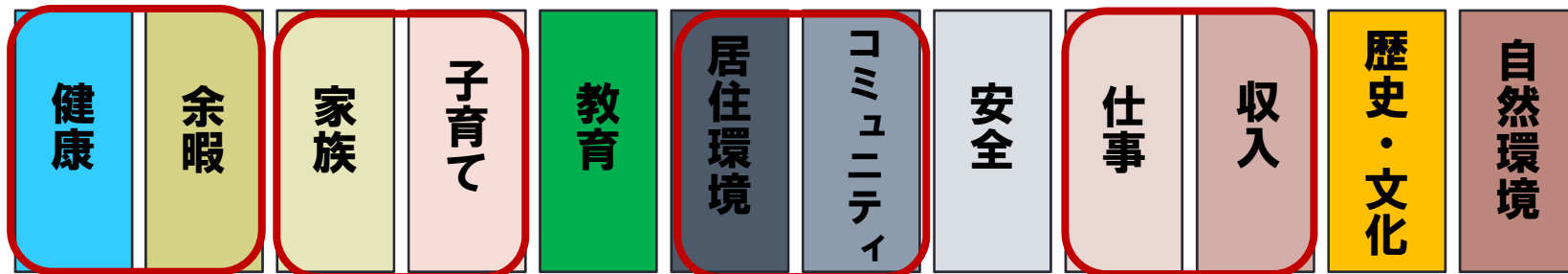
# (参考) 研究会が示した幸福度指標体系



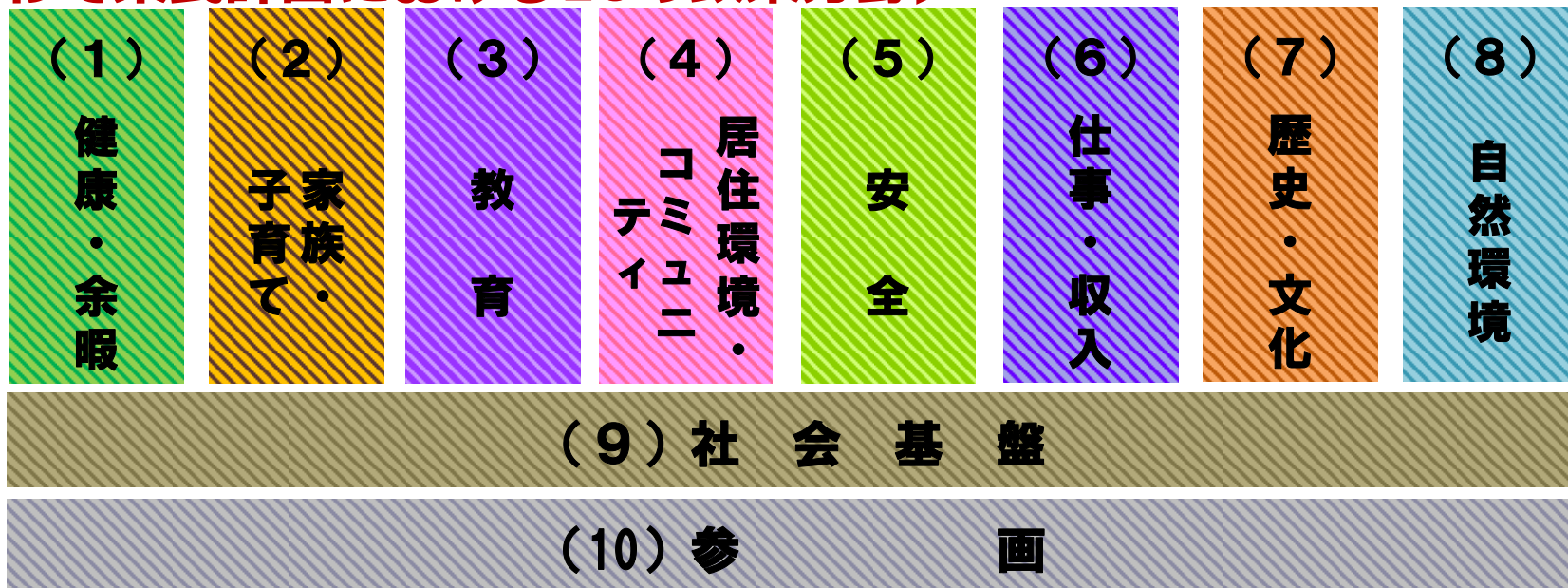
## Ⅱ.「いわて県民計画」の特徴

### (2) いわて県民計画での政策分野の設定

〔研究会報告書で示された幸福度指標体系（12領域）〕



〔いわて県民計画における10の政策分野〕



## Ⅱ.「いわて県民計画」の特徴

### (3) 政策分野ごとに「いわて幸福関連指標」の設定

研究会報告書で示された客観的指標例等を参考としながら、政策分野ごとに、幸福に関連する客観的指標である「いわて幸福関連指標」を設定

#### ➤ 3つの選定方針

##### ① 県民にとって分かりやすいこと

県民に対し客観的目標を示すため、政策分野の目標を体現する指標を設定。

##### ② 全国比較が可能であること

岩手の強みや弱み、現状や課題を把握するため、可能な限り全国比較できる指標を設定。

##### ③ 毎年度把握できる指標であること

政策評価に基づくマネジメントサイクルを確実に機能させるため、毎年度把握できる指標を設定。

⇒ **目標値も、全国順位を考慮しながら、バックキャストの視点で県民にとって分かりやすいよう設定**

## Ⅱ.「いわて県民計画」の特徴

表 各政策分野に設定した「いわて幸福関連指標」の例

10の政策分野	指 標
(1) 健康・余暇	①健康寿命 ②余暇時間
(2) 家族・子育て	①合計特殊出生率 ②男性の家事時間割合 ③総実労働時間
(3) 教育	①意欲を持って自ら進んで学ぼうとする児童生徒の割合 ②自己肯定感を持つ児童生徒の割合 ③体力・運動能力が標準以上の児童生徒の割合 ④高卒者の県内就職率
(4) 居住環境・ コミュニティ	①県外からの移住・定住者数 ②地縁的な活動への参加割合
(5) 安全	①自主防災組織の組織率 ②刑法犯認知件数 ③交通事故発生件数
(6) 仕事・収入	①一人当たり県民所得 ②正社員の有効求人倍率 ③総実労働時間〔再掲〕 ④高卒者の県内就職率〔再掲〕
(7) 歴史・文化	①世界遺産等の来訪者数 ②国・県指定文化財件数
(8) 自然環境	①岩手の代表的希少野生動植物の個体・つがい数 ②再生可能エネルギーによる電力自給率 ③自然公園の利用者数
(9) 社会基盤	①河川整備率 ②緊急輸送道路の整備延長
(10) 参画	①労働者総数に占める女性の割合 ②障がい者の雇用率 ③高齢者のボランティア活動比率 ④男性の家事時間割合〔再掲〕

## Ⅱ.「いわて県民計画」の特徴

### (4) 10の政策分野の下に、50の政策項目、203の施策を設定

➤ **10の政策分野【政策】**  
 県民の幸福感を基に設定

いわて幸福関連指標(70指標)

※県だけでなく、県民、企業、市町村等のあらゆる主体で達成を目指す指標。

➤ **50の政策項目【政策】**  
 政策分野ごとに、重点的・優先的に取り組む政策

➤ **203の具体的推進方策【施策】**  
 政策項目ごとに、政策分野、政策項目の目標を実現するために**県が実施する施策**

具体的推進方策指標(555指標)

👉 県民計画に掲載

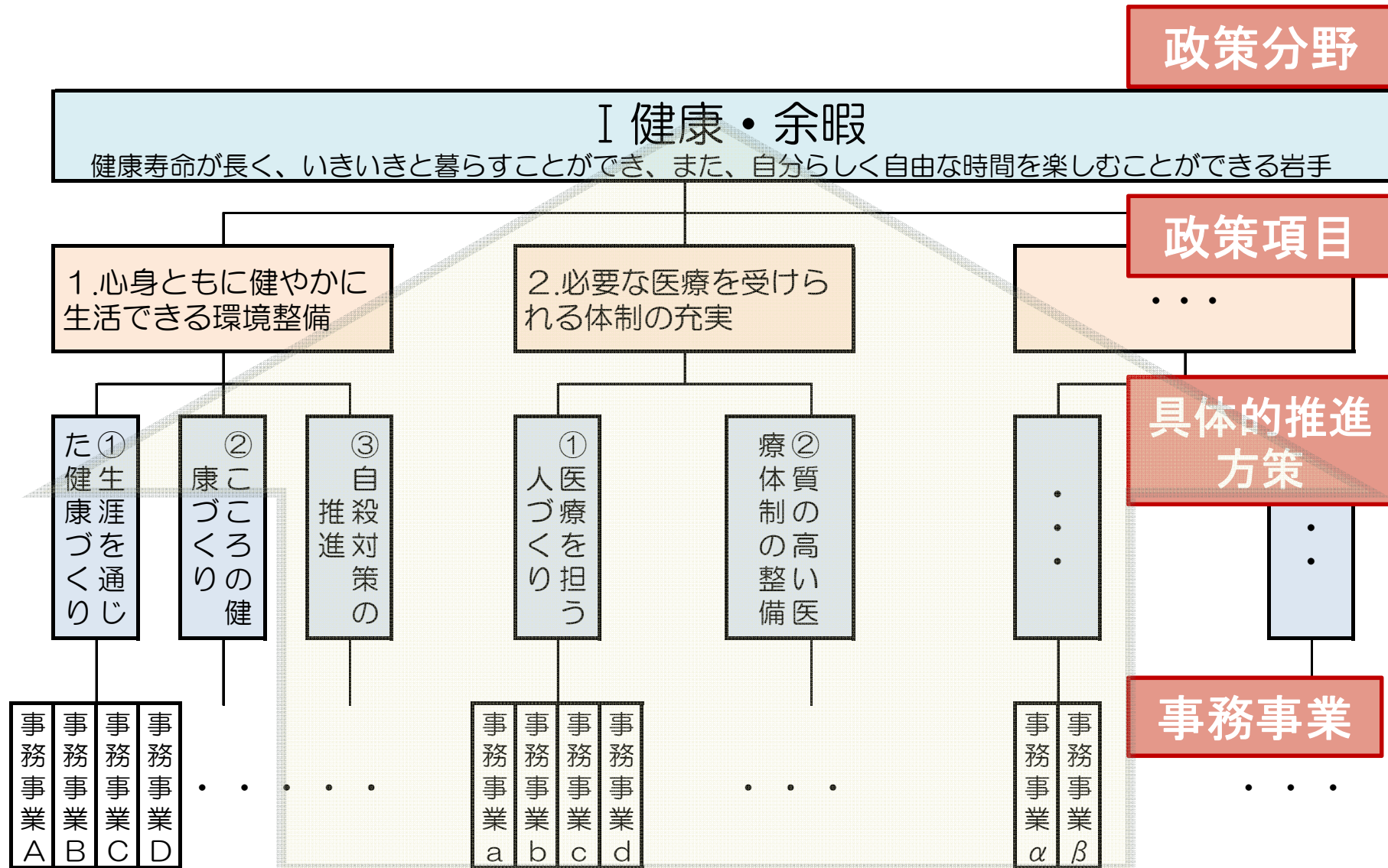
👉 毎年の予算編成で対応

➤ **約800の事務事業【事務事業】**  
 具体的推進方策ごとに、具体的推進方策の目標を実現するために毎年実施する事務事業

活動内容指標(各1指標以上)  
 成果指標(各1指標以上)

Ⅱ.「いわて県民計画」の特徴

(参考) 政策推進プランの構造のイメージ



## Ⅱ. 「いわて県民計画」の特徴

### 2 県民の実感を反映した政策評価

---

I 「いわて県民計画」の概要

Ⅱ 「いわて県民計画」の特徴

1 幸福に関する実感に基づいた政策体系

2 県民の実感を反映した政策評価

3 計画推進のためのその他の取組



## Ⅱ.「いわて県民計画」の特徴

### 2 県民の実感を反映した政策評価

#### (1) いわて県民計画を対象とした政策評価と事務事業評価

##### ➤ 階層ごとのきめ細かな評価

いわて県民計画に掲げる、政策分野、政策項目、具体的推進方策の3階層ごとに政策評価を実施。

毎年の事務事業も、政策評価とは別に事務事業評価を実施。

##### ➤ 指標の達成状況に加え県民の実感を反映した総合評価

政策分野の評価では、**いわて幸福関連指標の達成状況（A～D判定、全国順位）**に加え、県民意識調査で把握する**県民の実感の変化などを踏まえた総合評価**を行うことで、今後の方向性を検討

#### § 政策分野の評価の例

指標の達成状況【A】+指標の全国順位【低下】+県民の実感【低下】等  
⇒今後の方向性を検討

## Ⅱ.「いわて県民計画」の特徴

### 2 県民の実感を反映した政策評価

#### (2) より詳細な県民意識の把握

これまでの県民意識調査だけでは、県民意識の変化やその要因を的確に把握することが困難。

#### ➤ パネル調査（県民意識調査[補足調査]）の実施

県民の意識の変化をこれまで以上に詳細に把握するため、県民意識調査の補足調査として、**調査対象者を固定したパネル調査を新たに実施。**

##### ① 調査対象者

地域、性別、年齢を考慮して選定した600人（毎回固定）

##### ② 調査時期

県民意識調査と同時期（毎年1～2月）

##### ③ 調査項目(主なもの)

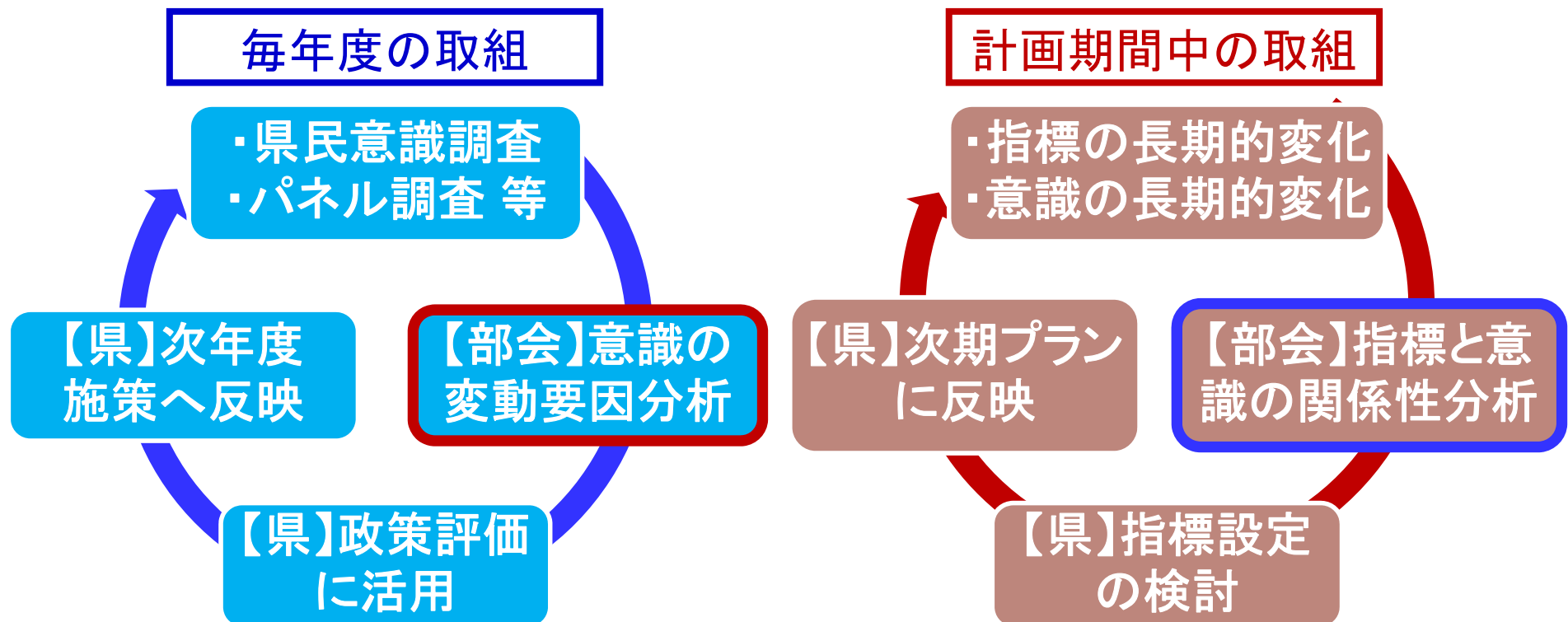
主観的幸福感、分野別実感、そのように回答した理由、最近経験した出来事、生活時間 など

## Ⅱ.「いわて県民計画」の特徴

## 2 県民の実感を反映した政策評価

## (3) 県民の幸福感に関する分析を行う仕組みの整備

各意識調査の結果を、**専門的かつ県民目線で客観的に分析**するため、外部有識者で構成する組織を、総合計画審議会の部会として設置（名称：「県民の幸福感に関する分析部会」）



## Ⅱ. 「いわて県民計画」の特徴

### 3 計画推進のためのその他の取組

---

I 「いわて県民計画」の概要

Ⅱ 「いわて県民計画」の特徴

1 幸福に関する実感に基づいた政策体系

2 県民の実感を反映した政策評価

3 計画推進のためのその他の取組

## Ⅱ.「いわて県民計画」の特徴

### 3 計画推進のためのその他の取組

#### (1) 政策推進のための庁内組織の設置

- 政策が複数の部局にまたがるため、政策評価や政策推進の主体が曖昧になる懸念。
- 10の政策分野ごとに、部局横断組織となる「政策推進クロスファンクショナルチーム」を設置。

**(政策分野ごとに、「評価結果」、「今後の方向」を議論)**

#### (2) 幸福について考えてもらうワークショップの開催

- 政策体系を抜本的に見直した計画のため、県民の理解が進まない懸念。
- 計画の趣旨を県民に理解してもらい**「幸福」について考えるきっかけ**とするため、県内各地でワークショップを開催。
- ワークショップの結果は、**画一的な意識調査だけでは把握できない生の声として、政策評価にも反映**

## Ⅱ.「いわて県民計画」の特徴

### 3 計画推進のためのその他の取組

#### (参考) ワークショップの様子

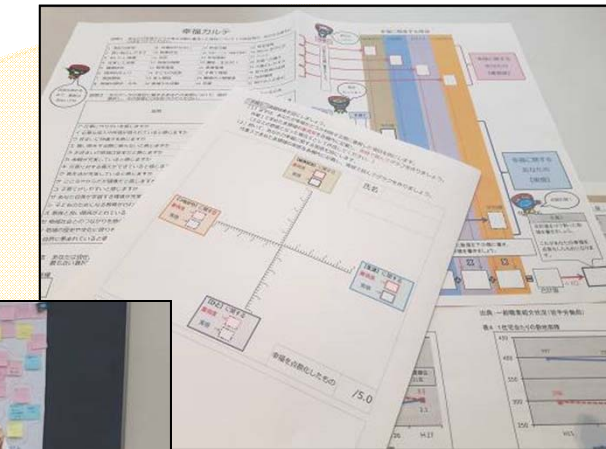
##### 👉④幸福宣言

「誰」の幸福を高めるために「何」をするかを宣言



##### 👉③グループ発表

全体で発表し、さらに議論を深める



##### 👉①現状把握

自分の「幸福カルテ」を作成し、現在の状況を見える化する



##### 👉②グループ議論

岩手の強み、弱み、幸福を高めるためにどうすべきか、グループごとに議論

